

第7章 取組個別シート

< 取組個別シートの見方 >

取組個別シートは、一つの取組項目について2~4 ページの見開きで構成している。シート内の各項目については、次のとおり。

① No.1
新たな財源確保に向けた取組

② I. テーマ

1. 健全な財政運営	5. 民間活力の活用
2. 市民サービスの進化	6. ICTの活用
3. 協働の推進	7. 職員の人材育成と「働き方改革」 簡素で効率的な組織づくり
4. 公共施設のマネジメント	

③ II. 現状と課題

生産年齢人口の減少に伴い、税収を中心とする市の歳入は減少傾向にあると予測されている。このような中、健全な財政運営を継続しながら、市民サービスの進化に向け、新たな事業を実施していくためには、税収以外の収入（税外収入）により、新たな財源を確保するという観点が重要である。

III. 取組内容

税外収入の確保策として、広告料収入及びネーミングライツ導入の拡大に向けた検討を進める。また、ふるさと納税制度の更なる活用に向け、新たにガバメントクラウドファンディングの実施や、企業版ふるさと納税の仕組みを導入することで、新規事業等に対する財源確保を図る。

IV. 目標・効果

新たな財源確保に向け、税外収入の拡大を図ることにより、財政基盤の確立・強化とともに、市民サービスの進化を目指す。

11

第8章 取組個別シート

④

SDGs :

⑤ V. 実践項目

実践項目名	ガバメントクラウドファンディングの実施				
担当部署	(政)政策推進課、(財)財政課				
取組内容	新たな財源確保の手法として、特定の事業に対して寄附を募るガバメントクラウドファンディングの仕組みを構築し、実施する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	対象事業の選定・実施 →				

実践項目名	企業版ふるさと納税の導入				
担当部署	(政)政策推進課、(財)財政課				
取組内容	新たな財源確保の手法として、地方創生に関する特定の事業に対して企業からの寄附を募る企業版ふるさと納税の仕組みを導入する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	対象事業の選定・実施 →				

実践項目名	広告料収入及びネーミングライツ導入の拡大				
担当部署	(財)財政課、各担当部署				
取組内容	新たな広告媒体の活用や公共施設のネーミングライツの導入に対する働きかけを強化するとともに、広告主がアクセスしやすい環境整備を進める。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	拡大の検討及び実施 →				

12

- ① 取組項目の名称
- ② 取組に関連するテーマ（関連するテーマを色付きで表示）
- ③ 取組における現状と課題、取組内容、目標・効果
- ④ 取組に関連するSDGsの目標（アイコン）
- ⑤ 取組における実践項目（実践項目名、担当部署、取組内容、工程表）

【 担当部署名の凡例 】

(政)→総合政策部、(総)→総務部、(財)→財政部、(民)→市民生活部、(環)→環境衛生部、(福)→福祉部、(健)→健康こども部、(産)→産業経済部、(都)→都市建設部、(病)→市立病院事務部、(水)→上下水道部、(消)→消防本部、(教)→教育部

No.1

新たな財源確保に向けた取組

I. テーマ

1. 健全な財政運営

2. 市民サービスの進化

3. 協働の推進

4. 公共施設のマネジメント

5. 民間活力の活用

6. ICTの活用

7. 職員の人材育成と「働き方改革」
簡素で効率的な組織づくり

II. 現状と課題

生産年齢人口の減少に伴い、税金を中心とする市の歳入は減少に向かうものと予測されている。このような中、健全な財政運営を継続しながら、市民サービスの進化に向け、新たな事業を実施していくためには、税金以外の収入（税外収入）により、新たな財源を確保するという観点が重要である。

III. 取組内容

税外収入の確保策として、広告料収入及びネーミングライツ導入の拡大に向けた検討を進める。また、新たにガバメントクラウドファンディングの実施や、企業版ふるさと納税の仕組みを導入し、ふるさと納税制度の更なる活用を進めることで新規事業等に対する財源確保を図る。

IV. 目標・効果

税外収入の拡大を図り、新たな財源確保に向けた取組を進めることにより、財政基盤の確立・強化とともに市民サービスの進化を目指す。

SDGs :



V. 実践項目

実践項目名	ガバメントクラウドファンディングの実施				
担当部署	(政)政策推進課、(財)財政課				
取組内容	新たな財源確保の手法として、特定の事業に対して寄附を募るガバメントクラウドファンディングの仕組みを構築し、実施する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	対象事業の選 定・実施				

実践項目名	企業版ふるさと納税の導入				
担当部署	(政)政策推進課、(財)財政課				
取組内容	新たな財源確保の手法として、地方創生に関する特定の事業に対して企業からの寄附を募る企業版ふるさと納税の仕組みを導入する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	対象事業の選 定・実施				

実践項目名	広告料収入及びネーミングライツ導入の拡大				
担当部署	(財)財政課、各担当部署				
取組内容	新たな広告媒体の活用や公共施設のネーミングライツの導入に対する働きかけを強化するとともに、広告主がアクセスしやすい環境整備を進める。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	拡大の検討及 び実施				

No. 2 民間資本の活用の検討

I. テーマ

1. 健全な財政運営

2. 市民サービスの進化

3. 協働の推進

4. 公共施設のマネジメント

5. 民間活力の活用

6. ICTの活用

7. 職員の人材育成と「働き方改革」
簡素で効率的な組織づくり

II. 現状と課題

高度化・複雑化する行政課題に対応していくためには、これまで以上に市民・企業との協働や連携による取組が必須である。また、公共施設等の効率的・効果的な整備手法として、PFI手法^(※)をはじめとする民間資本の活用についても積極的に推進する必要がある。

III. 取組内容

これまで本市で活用を進めてきた様々な官民連携手法の更なる推進に加え、新たな手法についても積極的な検討を進め、有効であると判断されるものから順次導入する。特に、PFI (Private Finance Initiative) 手法について、本市における指針等の策定を進めるとともに、苫小牧市民ホールや総合体育館などの整備において積極的な活用を図る。

IV. 目標・効果

官民連携手法の推進により、効率的かつ効果的な事業実施に向けた仕組みの構築を目指す。また、PFI手法の活用により、公共施設整備に係る財政的な負担の軽減及び平準化を図るとともに、効果的な事業実施を目指す。

SDGs :



V. 実践項目

実践項目名	官民連携手法（PPP）の推進				
担当部署	(総)行政監理室、(政)協働・男女平等参画室				
取組内容	これまで本市で取り組んできた官民連携手法をさらに推進するとともに、新たな手法について検討し、効果的に施策を実施する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	PFI手法の指針策定、新たな手法の検討	新たな手法の検討・実施			

実践項目名	PFI手法による苫小牧市民ホールの整備				
担当部署	(民)市民ホール建設準備室				
取組内容	PFI手法による施設整備に向け、実施方針の策定、PFI実施事業者の選定などの必要な手続を進め、財政負担の軽減と市民サービスの向上を図る。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	実施方針・要求水準書等の作成	特定事業の選定、事業者の選定	契約締結、実施設計	実施設計、工事着手	

実践項目名	PFI手法による総合体育館の整備の検討				
担当部署	(政)スポーツ都市推進課				
取組内容	総合体育館の老朽化に伴う整備にあたり、他市の事例や民間事業者のアイデアを参考にPFI手法を含む整備手法の検討を行う。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	整備手法の検討				

※ PFI (Private Finance Initiative) は、PPP (Public Private Partnership/官民連携手法) の一つであり、公共施設の整備にあたって、民間のノウハウを活用し、設計・建設・運営を一括で発注するとともに、資金調達についても民間自らが行う手法。

No.3 市立病院の経営健全化に向けた取組

I. テーマ

1. 健全な財政運営	5. 民間活力の活用
2. 市民サービスの進化	6. ICTの活用
3. 協働の推進	7. 職員の人材育成と「働き方改革」 簡素で効率的な組織づくり
4. 公共施設のマネジメント	

II. 現状と課題

市立病院は、東胆振・日高圏域における基幹病院として、救急医療や周産期医療、その他の高度医療を安定的に提供していく必要がある。現在、苫小牧市立病院新経営改革プランに基づく取組を進めているが、経営面における目標達成は難しい状況にある。

III. 取組内容

現行の経営改革プランにおける取組結果を検証し、その結果を速やかに公表する。また、単年度資金収支の黒字化に向け、新たな経営改革プランを策定し、当該プランに基づく取組を進めるとともに、地域の医療機関や行政機関等と連携を図り、東胆振地域医療構想に沿った取組を推進する。

IV. 目標・効果

安定的な医療の提供に向け、新たな経営改革プランに定める目標の達成を目指すとともに、単年度資金収支の黒字化により、市立病院の経営健全化を図る。

SDGs :



V. 実践項目

実践項目名	新たな市立病院経営改革プランの策定と推進				
担当部署	(病)経営管理課、医事課				
取組内容	現行の市立病院経営改革プランの実施状況を検証し、新たな経営改革プランを策定するとともに、それに基づき健全化に向けた取組を実施する。				
工程表	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
	経営改革プランに基づく取組	新経営改革プランの策定	新経営改革プランに基づく取組	→	

No. 4 市政情報の効果的な発信

I. テーマ

1. 健全な財政運営

5. 民間活力の活用

2. 市民サービスの進化

6. ICTの活用

3. 協働の推進

7. 職員の人材育成と「働き方改革」
簡素で効率的な組織づくり

4. 公共施設のマネジメント

II. 現状と課題

現在、市の情報発信ツールは、紙媒体である広報とまこまいが中心となっている。スマートフォンの普及が進み、様々な SNS による情報発信が拡がりを見せる中、本市においても、ホームページや Facebook 以外のツールの活用のほか、情報発信の在り方を見直す必要がある。

III. 取組内容

新たな情報発信ツールとして、苫小牧市 LINE 公式アカウントのほか、子育て関連の情報を収集しやすいポータルサイトの開設により、市民が必要とする情報を的確に受け取ることができる仕組みを構築する。また、ごみの分別等に関するアプリの導入やリサイクルプラザ苫小牧のサテライト施設の開設により、ごみの分別・減量・リサイクルに関する意識の更なる向上を図る。

IV. 目標・効果

市民に対する情報発信の充実を図り、利便性の向上を目指す。また、効果的な情報発信を行うことにより、市の各種施策に対する市民の関心度を高める。

SDGs :



V. 実践項目

実践項目名	苫小牧市LINE公式アカウントの導入				
担当部署	(政)秘書広報課、(総)情報推進課				
取組内容	新たなツールとして苫小牧市LINE公式アカウントを開設し、市民に対する情報発信の強化を図るとともに、様々な利活用の可能性について検討を行う。				
工程表	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	運用の検討、基準作成	LINE公式アカウントの導入	効果検証、利活用の検討		

実践項目名	ごみ分別アプリの導入とリサイクルプラザの機能拡充				
担当部署	(環)ゼロごみ推進課				
取組内容	ごみ分別アプリの導入及びリサイクルプラザ苫小牧のサテライト施設の整備を進め、ごみの分別や減量、リサイクルに関する意識啓発を行う。				
工程表	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	ごみ分別アプリの導入、サテライト施設の試験設置	サテライト施設の試験設置に関する検証	サテライト施設の整備・開始		

実践項目名	子ども・子育てポータルサイトの開設				
担当部署	(健)こども育成課				
取組内容	市が実施する子育てに関する事業の情報を収集・閲覧しやすい環境構築を進めることにより、利用者の利便性向上を図る。				
工程表	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	プラン作成、情報収集	委託事業者の選定、サイト構築	サイト運用開始		

No. 5

多文化共生のまちづくりの推進

I. テーマ

1. 健全な財政運営

5. 民間活力の活用

2. 市民サービスの進化

6. ICTの活用

3. 協働の推進

7. 職員の人材育成と「働き方改革」
簡素で効率的な組織づくり

4. 公共施設のマネジメント

II. 現状と課題

国際化が進む中、本市においても外国からの滞在者数が増加しており、今後も増加するものと予想される。外国人の受入体制を強化するとともに、苫小牧市に滞在する外国人を様々な面で支援するため、市全体として、多文化共生に向けた施策を推進する必要がある。

III. 取組内容

民間資本や民間のノウハウを活用しながら、多文化共生を意識した施策について検討・実施するとともに、市内在住の外国人に対するアンケートを実施した上で、多文化共生指針の策定を進める。また、ALT（外国語指導助手）の拡充及び有効活用により、小中学校における外国語教育の充実を図るとともに、市民を対象とした外国語教育・交流に関する様々な施策を実施する。

IV. 目標・効果

多文化共生に向けた施策を推進することにより、外国人の利便性向上を図る。また、外国語教育の充実などにより、市全体における国際化を促進する。

SDGs :



V. 実践項目

実践項目名	国際化の推進・国際化に向けた指針の策定				
担当部署	(政)国際リゾート戦略室				
取組内容	多文化共生を意識した施策を検討・実施するほか、市内在住の外国人に対するアンケートを実施し、多文化共生指針の策定を目指す。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	各種施策の実施、アンケートの実施	→		多文化共生指針の検討	→
					多文化共生指針の策定

実践項目名	窓口における外国人対応の検討				
担当部署	(民)窓口サービス課				
取組内容	市内に在住する外国人の増加に対応し、窓口サービスの充実を図るため、外国人対応に向けた方策を検討し、実施する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	外国人対応の検討・実施	→			

実践項目名	外国語教育の充実				
担当部署	(教)指導室				
取組内容	児童・生徒の英語力向上のため、ALT の配置を拡充するほか、イングリッシュカフェの開催や、幼稚園・保育園等への ALT 派遣事業を実施する。				
工程表	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
	ALT の拡充、イングリッシュカフェの開催、ALT 派遣のモデル実施	幼稚園・保育園への ALT 派遣の拡大			

No. 6

公共交通の利便性向上に向けた取組

I. テーマ

1. 健全な財政運営

5. 民間活力の活用

2. 市民サービスの進化

6. ICTの活用

3. 協働の推進

7. 職員の人材育成と「働き方改革」
簡素で効率的な組織づくり

4. 公共施設のマネジメント

II. 現状と課題

市内路線バスの利用者数は、自家用車中心のライフスタイルや定時運行の不確実性などを要因として、減少傾向が続いている。また、市外から訪れる人々にとっては、運行等に関する情報が少なく、目的地までのルート探索等が困難である。利用者の利便性を向上させ、利用者数の増加を図るためには、市と路線バス事業者とが連携した取組が必要である。

III. 取組内容

苫小牧市地域公共交通網形成計画に基づく取組として、市内バス路線の再編に向けた検討を進める。また、ICTを活用した新たなモビリティサービスの構築に向けた検討を進め、利用者の利便性向上を図る。

IV. 目標・効果

利用者の利便性向上に資する取組を進めることにより、利用者数の増加を図るとともに、持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指す。

SDGs :



V. 実践項目

実践項目名	地域公共交通網形成計画の推進				
担当部署	(政)まちづくり推進課				
取組内容	苫小牧市地域公共交通網形成計画に基づき、より効率的かつ効果的なバス路線へと再編を図ることで、持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指す。				
工程表	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
	計画策定、路線再編に向けた検討	路線再編、効果検証	→		計画の見直しに向けた検討

実践項目名	ICTを活用した新たなモビリティサービスの検討				
担当部署	(政)まちづくり推進課				
取組内容	より利便性の高い公共交通サービスを提供するため、事業者と連携し、ICTを活用した各種システムの導入に向けた検討を進める。				
工程表	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
	ICT 導入の検討・適宜実施	→			